



八千代市郷土歴史研究会
会長 村田一男
事務局 八千代市勝田台 3-24-10 牧野方

5月17日(土) 5月例会
平戸地区総合調査・現地学習
集合：緑が丘駅から12:40発のバスに乗車
平戸バス停下車

=報 告=

4月6日(日)
平成20年度定期総会と市長懇談会
八千代市立郷土博物館にて有意義に終了しました

=お 知 ら せ=

平成20年度定期総会の報告

6月14日(土)～15日(日)
福島県会津地方 一泊研修旅行

・13:30～14:30 会員数67名 参加者30名
委任状提出者15名で、滞りなく議事が進められました。

集合14日 午前6時45分 勝田台駅北口

☆コースと見どころ:

・研究テーマは、昨年から継続の「大和田新田総合研究Ⅲ」と、3月から新規にスタートしている「旧平戸村総合研究」です。

- ・第1日目：東北道＝西那須野塩原IC＝大内宿(昼食)＝飯盛山・鶴ヶ城・会津酒造博物館＝東山温泉
- ・宿泊：東山グランドホテル泊 tel:0242-27-3500
- ・第2日目：＝弘安寺(中田観音)＝恵隆寺(立木観音)＝鳥追観音＝円蔵寺(福満虚空蔵尊)＝郡山市開成館見学＝磐越道＝勝田台駅解散

・活動計画のスケジュールは承認された平成20年度事業計画をご覧ください。

☆参加申し込みは、5月末日まで

・今年度研修旅行の予定は、左のお知らせ欄の通り。

- ・会費は3万円を予定。
- ・参加者は20名を予定しています。

・文化祭は会場の都合で今年は11月29～30日に決定。

7月20日(日) 7月例会

・恒例の七福神巡りは1月7日(水)目黒七福神を巡ります。(混雑をさけるため平日に実施)

- ・午後1時～4時 八千代市立郷土博物館
- ・情報交換、研究分担・資料学習ほか打合せ

・白井家文書解読は第1・第3木曜日 第2・第4水曜日。これに対し平日参加できない会員への配慮の希望が意見としてだされ、週末の例会の活動にも白井家文書解読の一部を取り入れていくこととなりました。(記：藤由美)

8月24日(日) 8月例会

- ・午後1時～4時 八千代市立郷土博物館
- ・情報交換、打合せ

有志による白井家文書解読

研究日程 第1・第3木曜日 第2・第4水曜日
八千代市立郷土博物館にて(詳細は会長まで)
解読研究は5月中の完成予定です。

・総会で年会費は3000円に決まりました。
・当日欠席で会費を納めてない方は、次回例会時に必ずお納めいただくか、会計に連絡の上、下記へ振り込みをお願いします。

「八千代市郷土歴史研究会 代表 園田充一
千葉銀行勝田台支店 普通 041-2254442」

八千代市長との懇談会

日時 2008年4月6日(日) 15:00~16:10

- ・豊田市長から文化財保護に対する市政の説明
- ① 市長は機会あるごとに市民と交流するように心がけている。
- ② 文化財出土品保存倉庫を阿蘇小学校内に設置。(倉庫リース料 年間 125万7480円)
- ③ 保存指定樹木は60数本あり指定料は1本につき3000円。全体で26・27万になる。
- ④ 八千代広域公園を暫定オープンしたこと。
- ⑤ 市では文化財に使う費用は一般会計から出ており目的税としてはとっていない。行政が観光産業と仕組みができれば予算が出る。



- ・会員の斎藤正一氏、小林千代美氏、蕨由美氏から市長へ次の要望を出す。
 - ① 市内史跡や文化財の案内標・説明板が古くかすれて見えにくい。米本城の大手門にある説明板など。
 - ② 環境計画に歴史的なものを大切にするという視点を持ってほしい。
- ・村田会長より「血流地蔵道」の道標が歩道拡幅工事のために撤去されていることについて、「道路工事の際、歴史的概観を大切にするというご指導を頂きたい」という要望する。
- ・市長より、要望に対し文化財保護の仕組みを作る必要があると思うので他市の処理を研究し、可能性を探ると返答あり。八千代市が全国的に注目

された案件を二つビデオで見てほしい

- ① 全国ネットで放映されたゴミ処理の最終処分場についてのもの
- ② 東京女子医大八千代医療センターにおける救急医療に新システム導入について

・村田会長の挨拶

・市長対話が始まる前に、市長のお母様手作りの「草もち」たくさん頂き、美味しくとても柔らかい雰囲気に対話ができました。

(記：斉藤君代)

2月17日(日)

「再発見八千代」

八福神めぐりと歴史探訪に参加して
小菅 俊雄

八千代市仏教連合会と当会が平成元年(1989)11月に設置した「八千代八福神」の20周年を記念し、郷土博物館と当会が共催し、当会員が八福神設置の寺院の歴史・文化財を解説しながらバスで「八福神」をめぐる行事が企画され市民の参加を公募した。

「わかば号」の定員の倍ほどの希望者があったため抽選となり、当選者・見所案内人として当会から7名・博物館担当者を合わせて合計46名が参加して2月17日(日)に実施された。

当日は快晴にめぐまれ暖かな陽気で、定刻午前8時20分に大和田図書館前に集合、「わかば」号に乗車、定刻スタートした。

- ① 正覚院・毘沙門天(案内人村田会長)

まず正覚院にむかう、車中、村田会長より「八福神」設置のいきさつをお聞きする、七福神研究を行った当会ではそれに吉祥天を加え八千代の「八」にふさわしい「八千代八福神」の創設を市仏教連合会に提案し、同会のご尽力で1989年に市内全域に及ぶ特色ある新文化として八福神の安置が実現したとのことである。

やがて車は新川畔の駐車場に到着、霜柱を踏んで正覚院へ、入り口の前にある「片葉の弁天」と呼ばれる巖島神社の由来を説明される、正覚院は池証山駕鸞寺正覚院と称し、宗派は真言宗でおしどりに因んだ縁起がある、釈迦堂に安置されている

清涼寺式釈迦如来立像は県指定の文化財である。本尊は木造大日如来坐像で、福神は「毘沙門天」が安置されている。境内には寛文 11 年（1671）の十九夜塔があり、如意輪観音の丸彫りであるが、頭部を失い、他の仏像の頭部が接合されている。また墓地の中に応永 18 年（1411）の宝篋印塔があり市指定文化財である。土塁や堀跡などの説明をいただく。

車に戻り次の

② 萱田長福寺・寿老人（案内人佐久間弘文）

新川をわたり直ぐに到着、墓地の入り口から本堂前へ、萱田山長福寺といい、宗派は真言宗で長享元年（1487）創建、本尊は木造阿弥陀如来坐像である。本堂の左手に福神の寿老人が鹿を従えて立っている、それに並んで寛文 9 年（1669）の三層塔がり、二層目に勢至菩薩像が浮彫りされている、この塔は二十三夜塔と日記念仏塔を兼ねている。



また吉橋大師 21 番札所があり、本堂右後ろの歴代住職やお寺さんの家族の墓所の中に筆子塔がある。山門は朱色に塗られていて、「萱田の赤寺」とよばれる。六地藏や享保 9 年（1724）の勢至菩薩像二十三夜塔など沢山の石造物が見られる。

車はまた新川をわたって

③ 長福寺・弁財天（案内人森山一徳）

参道入り口左側に市指定文化財の戒壇石がある「禁芸術売買之輩」と刻まれている、また右側には「不許くん酒入山門」の碑が立っている、その右手の小さなお堂の中に福神の弁天様が安置されている、高さが 30cm に満たないかわいらしい造りである。

米本山長福寺といい宗派は曹洞宗で本尊は木造

阿弥陀如来坐像で米本城主村上綱清が天文 20 年（1551）に開山したといわれる。楼門の左右に普賢菩薩と文殊菩薩が納められている。本堂後ろの高台に墓苑があり、いちばん奥に永禄元年（1558）に自害したといわれる綱清の墓と伝えられる五輪塔があり市の文化財に指定されている。また庫裏の玄関に保存されている武蔵式板碑を拝見する。

車は保品に向かう

④ 星埜山東栄寺・福祿寿（案内人蔵由美）

車中、清涼寺式釈迦如来像についての話して叡尊や忍性の活躍を伺う、程なく東栄寺到着、宗派は真言宗で、ご本尊は木造薬師如来立像である。本堂には不動明王がまつられている。福神は福祿寿である。薬師堂は 2002 年に改修された、村上の正覚院の縁起では保品から清涼寺式釈迦如来像がきたと伝承されている。境内には千葉寺十善講五十四番札所、妙見堂などがある、妙見堂の脇に「金毘羅大権現」の額が立てかけてあり、印旛沼の水運とのかかわりを垣間見る思いがする。本堂うらには市の保存樹の「いちょう」がそびえている。

東栄寺境内の北側に開けた一面の耕地は印旛沼の治水が成功するまで毎年のように洪水で悩まされた様子が理解できる風景である。

なお元禄 13 年（1700）の丸彫りの六地藏や十九夜塔など沢山の石仏がみられる。

車は昼食休憩のために「道の駅やちよ」に向かう、11 時 30 分に到着解散、午後は 12 時 20 分集合となる。

定刻に道の駅をスタート、市内の北部に向かう

⑤ 妙光寺・吉祥天（案内人酒井正男）

車中午前中にバスの中で配られた七福神のパンフレットについての説明を聞くうちに到着。常宝山妙光寺といい、門を入ると立派な本堂が正面に建てられている、ご本尊は木造曼荼羅像で宗派は日蓮宗である。福神は吉祥天で本堂に祀られている、七面天女の木像もある。

⑥ 妙徳寺・大黒天（案内人酒井正男）

本堂の屋根が遠くからもくっきりとみえる、高誉山妙徳寺といい、ご本尊は一塔両尊四士で宗派は日蓮宗で妙光寺などとともに旧神保領の日蓮宗千部講が行われている。境内左側にある大黒堂に福神の大黒天が収まっていたが、現在は盗難の

懼れがあるので本堂に安置してある。また「星祭り」に水行会が行われる。案内人の酒井さんから伝左甚五郎作の大黒様を披露され、希望者に大黒様（烏瓜の種）が配られた。

⑦ 愛宕山貞福寺・恵比寿（案内人園田充一）

まず吉橋大師講 1 番札所の吉祥院を訪ねる、小さなお堂があって、存秀法印師供養塔や「房総の石仏」に選ばれた、寛文 8 年（1668）の優美な勢至菩薩を刻んだ二十三夜塔など境内には多くの石造物がある。ここから歩いて貞福寺へ、当会に何かとご尽力を頂いた住職の加藤孝貫師が 2 月 7 日に亡くなられたため、山内へ登る石段の登り口のところに「山内不幸」と書かれた新しい木札が掲示されている。

寺院の境内とその周辺は戦国時代の吉橋城址で、宗派は真言宗のお寺で、ご本尊は木造地藏菩薩立像、別名を血流地藏菩薩という。境内には吉橋大師講 20 番札所がある、本堂右手に福神の恵比寿様が安置されている、またその前に他の七福神が揃って安置されている。

多くの由緒ある石造物が林立している、案内人園田さんの軽妙な説明に耳をかたむける。

住職の奥さんから挨拶をいただき、故人がなにか 20 周年のお祝いをと考えていたとのことで、お赤飯と南天の夫婦箸を記念に頂く。

境内を出て、切通しの道を通って、今はゲートボール場になっている昔の一の郭に入る「吉橋城址」の石碑がたっている。会長から土墨を案内される。

車に戻り、日程最後の観音寺に向かう

⑧ 高津山観音寺・布袋尊（案内人牧野光男）

車中で観音寺の縁起などを伺ううちにお寺の駐車場につく。参道右側に戒壇石、左側に四国霊場供養塔がある、この供養塔は廃寺となった正福寺から移したものとされる。

右手に六地藏を見て山門をくぐると左手にあるお堂が吉橋大師講 10 番札所である。正面に大きな本堂があり、宗派は曹洞宗でご本尊は木造十一面観音菩薩立像である。福神は布袋尊で本堂左側に安置してある。創建については藤原時平の娘高津姫伝説がたつた。

左へ坂道を登ると韓国式の鐘楼がある、関東大震災のとき殺害された韓国人を供養した御札と犠牲者の慰霊のために韓国から寄贈されたもので、

供養塔もある。

同じ敷地のなかに領主間宮氏の顕彰碑、宝匡印塔の墓が建っている。さらにその奥の木立の中に高秀霊神社の大きな石碑がたっている。

観音寺の裏手の高台には高津ひめ神社が祀られている、ハツカビシヤが行われる。

ようやく陽もかげって寒くなってきたなかをバスに戻る、

4 時ころ大和田図書館にもどり、解散する。

今日一日ふるさと八千代の豊かな自然と多くの史跡や石造物を案内されて心が満たされた思いでいっぱいでした。

ご案内いただいた案内人の皆様、博物館の担当者の皆様、有難うございました。

3 月 16 日（日） 3 月例会
旧平戸村の現地調査

平塚 胖

快晴、彼岸前だというのに春の陽射しが一杯でフィールドワークに最高の日和である。今日は今年度（平成 20 年度）の研究テーマ「旧村、平戸村の総合研究」の現地学習である。

12:30 東葉高速鉄道の緑が丘駅に 19 人が集合、12:40 発木下行きバスに乗る。

約 20 分で平戸入口にて下車。村田会長・会員の松本さん・佐藤（二）さん、特別に平戸区長の高橋さんが同行する（会員の齋藤（正）さんが前もってご案内をしていた）。待機していた人たちと合流し、総勢 24 名が参加した。

村田会長の挨拶に続いて本日のフィールドワークのレジュメが配布された。

まず平戸入口バス停のそばにある十文字屋商店の給油所の敷地の外れに、かつて「植草兵左衛門の顕彰碑」があったとの説明でスタートした。

バス停から南に進み 150 メートルほどで三叉路に出る。ここは村の入口と思われ、立派な鳥居（平成十年に建立）の道祖神が祀られており、その横に「今村大明神」と読める石祠がある。

この今村大明神とは領主の旗本今村氏で神として祀られ、大明神と言う神号を付けられたものである。この時代に神として、実在の人物が祀られ

ているのは、非常に珍しいことである。

この石祠の道路を挟んで向い側には庚申塔など沢山の石塔が整然と安置されており、村人の大切な場所であることが伺える。今回は時間の関係でパスしたがご興味をお持ちの方はじっくり調査して頂きたい。

また村田会長が『たうん八千代』2004年 NO75 に「平戸村の今村大明神」として丁寧にまとめて寄稿されているのでこれを参照して下さい。

ここから少し西に向い「平戸やすらぎの家」の敷地内に先程街道筋にあったと言う植草兵左衛門の顕彰碑が移されている。植草氏は江戸から明治にかけて、印旛沼の掘削普請に尽力された方であった事が碑文により理解できる。

畑のなかを通り、高台のはずれにある、「あさひ霊園」より印旛沼方向を望む。新川・神崎川や平戸橋などが一望出来て素晴らしい景観である。かつて昔はあの向こうまで印旛沼であったとか・・・、想像するに飽きない眺めである。



さて、霊園のすぐ脇の坂を下り台地の下に出る。台地に沿って右に 100メートル位で中台さんの屋敷があり、道路を挟んでその前のブドウ棚の下に昭和初期の2基の道標がある。これは会員の佐久間さん・板倉さんが最近発見されたもので確認・観察して進む。

左は平戸橋へ、右が印旛沼掘削普請で有名な染谷源右衛門の屋敷になっている。染谷氏の屋敷には屋敷墓があり一寸参拝して進む。

染谷氏宅の左並びに東照寺がある。今日のハイライトで地元の方々にお話を聞く場所である。

早速我々は庫裡の方へ案内される。そこにはすでに地元の方々がお待ちであった。座卓の長いテーブルが並べあり、ひときわ大きい黒い位牌が置かれてあった。

お茶とお菓子の接待を受けながら位牌の観察か

ら始まる。

位牌は表に「清賢院殿心誉忠節大居士」松平新九郎口修と書かれている。松平新九郎とはここ平戸村のもう一方の旗本で領主であった。平戸には今村氏と二人の領主がいた。

この位牌は富沢和子さん方に保存されている。本日は和子さんのお母さんである富沢多永（とみさわたえ）さん（81歳）が来ておりお話をしてくださった。領主の位牌がどうして富沢家に有るのか確かなことはわからないが・・・

富沢さん所の近くに住む黒沢さんご一家（当主の作治氏・奥さんの百合子氏・お嬢さんのさえ子氏）が見えており、お嬢さんのさえ子さんが小学校の頃、自由研究で一般的には理科系が対象であるが彼女はこの位牌に興味を持ち、子供ながら位牌の主やその背景などを調べたとのこと。もちろん当時は小学生であったのでお母さんの百合子氏が全面的に指導・協力されたようである。

高校の卒業論文でこの位牌にまつわるその後の研究を発表したとのこと。その当時の研究ノートなどを見せていただいた。ノートにはこの松平家の最後の末裔（19代当主で現在は故人）にヒアリングをするなどよく調査されており感心させられた。

続いて旧名主の中台達雄氏に平戸村の歴史についてお話を聞くことが出来た。

印旛沼の洪水・水害などがあったものの土地は肥沃で良好であったらしく、昭和55年には中台さんが米作で千葉県を代表して天皇陛下へお米を献上したとのこと。賞典長からいただいた状が額に入れられており、陛下からお言葉を賜った時の写真など嬉しそうにお話しされた。

最後に東照寺の住職である兼子孝純氏が戦後まもなくの頃東照寺の上空から米軍が撮った航空写真を見せて呉れた。たたずまいは今とあまり変わらないように見受けられた。

その他、東照寺に伝わる過去帳など貴重な資料を快く拝見させていただいた。

また、富沢家に伝わる古文書をお借りすることも出来、今後の平戸研究資料としての価値あるものと思われる。

午後4時半頃、東照寺を辞して平戸入り口にて解散。有志12人は東葉鉄道の緑が丘駅でお疲れ様会をした。

高津の相馬大師巡拝に参加して

吉野 静生

4月8日(火曜)、9日(水曜)の両日、高津の皆さんによって永く引き継がれている恒例の「相馬大師」巡拝に参加させてもらいました。「取手の春はお遍路さんの鈴の音にのってやってくる」と言われる相馬霊場めぐり、両日の参加者は総勢18名、当会からは6名がマイクロバスに乗車しました。昨年秋の「吉橋大師」巡拝にも、会員7名が参加したと聞いておりました。

1日目(4月8日)

昨夜来の風雨がより一層強くなって実施を危ぶみましたが、高津のご老人たちは何の差しさわりあろうかと、高津観音寺に集合していました。

世話人は鈴木信司さん、先達はいつものように吉橋春由さん、最高齢は92歳、余裕の貫禄です。

定刻8時に出発、風雨が荒れる外とはうって変わり車中は和やかな雰囲気。世話人の挨拶、四国遍路のときの読経やご詠歌がテープで流され、芹洋子のヒット曲「鈴の音山河」の明るい歌声が響きます。先達さんがこの曲をそらんじていました。

巡拝の最初は取手市の三番札所「八坂神社」、今回の無事の巡りを祈願して1回目の読誦、天候の回復の兆しが見えないなか順調にコースをたどり、昼食は六十八番の柏市「布施弁天」。

今日だけで58ヶ所の札所を巡り、「締め」は、番外札所の八十九番、我孫子市の「浅間神社」でしたが、バスを降りると風雨がピタリと止む奇跡、読誦して初日の無事を感謝し、高津観音寺に6時ころ帰着しました。



新四国相馬大師巡拝記念 長禅寺にて

2日目(4月9日)

雨があがってうす曇、ちょっと肌寒いですが巡拝には手ごろな気温と感じる程度でした。

同じく観音寺に集合し、最初は一番・八十八番の名刹「長禅寺」。

顔なじみのご住職からお茶の接待を受け、本堂に通されて最初の読誦。観音堂まで全員の記念写真をとったのち、第二日目の遍路が始まりました。

きのうの激しい風雨がうそのような穏やかな天気、気持ちも晴れ晴れと取手市の残りの札所をめぐり、午後1時すぎに結願の取手市小堀「常円寺」に到着し、無事に八十八ヶ所をめぐり終えた感謝の気持ちをこめて最後のお経を唱えました。

こののち利根川を渡って千葉県に戻り、成田山新勝寺、宗吾霊堂に参詣、おそい昼食をとったのち、高津観音寺駐車場に午後5時半、無事帰着となりました。

私たちと縁が深い「吉橋大師」は身近な存在ですが、初めて「相馬大師八十八ヶ所」をめぐり、それぞれの特徴を感じるところも多い有意義な二日間でした。

最後に、私たちの参加を受け入れてくださった高津の皆様へ感謝し、一層の長寿を願ってお礼に代えます。

二度目の上洛を果たす

田宮 達夫

前回の「旧東海道ひとり旅」は、日本橋より三条大橋までひたすら歩くことを主眼にしたが、今回の「旧中山道あるく旅」は、平成17年9月24日から平成20年4月5日までの32行程で、愚直に旧道にこだわり、日本橋から三条大橋まで歩くクラブツーリズム千葉歴史倶楽部主催の歴史講師同行の旅である。

旧中山道は、日本橋から草津宿までである。旧中山道と旧東海道との追分には、追分道標を兼ねた石燈籠が建っている。これより先は、旧東海道を歩く。

旧中山道には旧東海道のように旅人を悩ました「新居の関所、大井川の川止め」などの悪条件も

ないことから、碓井峠をはじめ厳しい峠越えが12峠あるにもかかわらず、多くの人々が利用した街道であった。碓氷峠（標高1200m）の頂上まで、標高600mからの登る山道は一部崩落しており、熊注意の看板を見て、笛を吹き、鈴を鳴らし、山蛭の攻撃を受けながらの峠越えは、心房細動不整脈の自分には、登りはかなり厳しいものであった。昔の旅人の気持ちが改めて実感できる峠でもある。

この街道歩きで甲斐国・信濃国・美濃国・近江国の各地域で活躍した歴史上の人物たち（武田信玄・織田信長・豊臣秀吉・徳川家康・大海人皇子＝天武天皇・大友皇子など）の生き様を遺物・遺構を通して歴史講師より説明を受けたことは大きな収穫であり、また、現存している道標や常夜燈・一里塚・本陣・脇本陣・双頭道祖神などの石仏も確認できて嬉しかった。

今回の旅では単に旧中山道を歩くだけでなく、街道から外れた関ヶ原の桃配山（徳川家康の指揮所跡）・笹尾山（石田三成の指揮所跡）や岐阜城・犬山城・安土城跡・彦根城・五箇荘天秤の里・石山寺・園城寺にも立ち寄り、歴史を振り返ることもできた。

「旅は道連れ 世は情け」というが、歴史に興味を持つ仲間と、長い旅を続ける中、気心も判るようになり、楽しく歩くことができた。最初31名でスタートして、約534kmを完全踏破した14名には認定書を授与され、互いに健闘を称えあった後、満開の桜と三条大橋を背景に旅の仲間と完全踏破記念の集合写真を撮った。



三条大橋

そうだ！！京都に行こう

藤本 涼輔

先月15日から22日、京都・奈良まで旅に出ていました。自分の中での毎年の恒例行事として決めているのですが、今年は例年と違う旅になりました。

実は、遡ること1年と少し、私が大網白里の歴史研究会での講演をした時です。私は、大網白里にある二十四孝という事で逸話の中の1つの郭居の絵馬（物語などについては今回は省略いたします）を紹介し、その場面から「間引きの絵馬ではないか」という意見を発表しました。しかし講演と一緒に来てくださった佐久間会員からは反論を受けることになりました。同氏は二十四孝を研究されている京都女子大学の橋本教授と意見交換をされていたようです。そこから1年以上が過ぎたのですが、同氏は橋本教授を私に紹介してくれることになりました。そして、今回の京都旅行になったのです。

受験や卒業レポートが忙しい大学の時期、突然の訪問依頼にもかかわらず、橋本教授は快く私を迎えてくださいました。橋本教授の名前は、二十四孝の研究論文などで知っていましたが、まさか、その教授と会って、二十四孝についてお話ができるとは思ってもいませんでした。

3時間にも及ぶご指導、収穫は計り知れないものでした。1つ1つの疑問、質問に丁寧に答えてくださり、得がたい充実した時間となりました。さらに中国の墳墓で発見されている二十四孝の画像資料や、色々な情報をお土産にいただきました。こうした多くの情報を頭の中で整理するにはまだ時間がかかりそうです。しかし、ここで得た知識はこれからの研究に生かし、自分なりに考察をし、橋本教授の意見から自分の意見にプラスして発表できるようにします。その時は、少し成長した私の姿を見せられると思います。

20歳という区切りの年にとても良い旅をすることが出来ました。そして、これからのテーマを見つけることも出来ました。その後、奈良2日間、京都4日間、大阪2日間の一人旅をし、心と身体を癒して帰ってきました。



大阪七福神の大黒天の神社

大阪では、四天王寺を中心とする七福神巡りをしました。この日は丁度、八千代でも八福神巡りをしている日でした。何か、大阪と八千代で繋がっているような気がしました。奈良・京都では天候に恵まれながらも、「雪の金閣寺」も見ることが出来たと言う幸せな1週間でした。雪が残る鞍馬山を登り、平塚会員には早速連絡させていただいたのですが、重要文化財の狛犬も見ることが出来ました。

一人旅から帰った次の日は、千葉県郷土史連絡協議会のフォーラムに会の代表として（私はオマケのようですが）牧野副会長と参加させていただきました。フォーラムの報告は牧野副会長に任せて・・・自分をここまで育ててくれた八千代市郷土歴史研究会の皆様に感謝をしながら、結びの言葉に代えたいと思います。これからも、宜しくお願ひ致します。

平戸の「お釈迦講」の取材&古墳発掘情報 藤 由美

20年度の旧村調査は平戸地区、まずは現在行われている女人講の姿を取材させて頂きと、黒沢家・中台家の奥様方をお願いしたところ、「4月8日に東照寺でお釈迦講があるから」ということで、さっそく行ってみました。

花祭りのその日は、あいにく朝から風雨が強く、平戸橋付近の沼の水が濁流のように逆巻いていて昔話の暴れ沼を彷彿させる風景でした。

旧平戸村は中山法華経寺の神保領、且那寺の東照寺は日蓮宗です。ムラの信仰行事として庚申講、熱田神社での晦日こもりなどがあったのですが、

都市化の波で中止され、現在は、千部講による8月17日の施餓鬼と8月28日の川施餓鬼、そして女性たちによる毎月の「お釈迦講」が存続しています。

お釈迦講は、釈迦誕生会の4月8日と、涅槃会の2月15日のほか、他の月も毎月1回8日か8日に近い週末などに東照寺で行われます。

本来は、出産・育児中の主婦の講でしたが、最近では約60軒の家の中年過ぎの主婦で構成され、当番が飲食の準備をします。

この日は悪天候で集まったのは数名でしたが、東照寺本堂で太鼓をたたきながら「法華自我偈」と「南無妙法蓮華経」のお題目を唱え、拜んだ後、庫裏でお茶・漬物・菓子などをいただきながら懇親を深めていました。

なお、平戸地区では、平戸台古墳群の一つ、島田～平戸バイパス沿いの平戸台8号墳が現在緊急調査中です。石棺を伴うようで、調査の進展に注目しています。

（紙面の都合で、詳しくは例会で報告します。）

＝ 短 信 ＝

☆新入会員のご紹介（敬称略）

田村 勲（八千代台北17丁目在住）

☆房総のむら「風土記の丘資料館」トピックス展

「岩屋古墳と竜角寺古墳群」開催中～6月29日（日）

・記念講演会：5月25日（日）13：30～15：00

「岩屋古墳の測量成果」 高谷 英一 氏

当日申込、参加費無料（入館料は必要）

☆千葉県文書館 県史刊行記念講演会

6月14日（土）13：00～

「出羽三山をめざした房総の人たち」立野晃氏

「開発県政の光と影」 明田川融氏

往復はがきで申し込み、5月23日締切

詳しくは、千葉県文書館（tel 043-227-7551）へ

＝ 編集後記 ＝

民俗調査や遺跡探索で訪れる平戸。満々と水をたたえている田植時の今の姿は、往古の広い印旛沼を思い起こさせる景観です。

本号は、積極的な投稿で8ページになりました。今後ともどうかよろしくね。 By. 藤 sawarabi-y@nifty.com